

氏名	岩 藤 知 義
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	甲 第 554 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和58年3月31日
学 位 授 与 の 要 件	医学研究科外科系外科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学 位 論 文 題 目	自家腫瘍抽出膜蛋白リンパ球混合培養液による自家皮内反応
論 文 審 査 委 員	教授 寺本 滋 教授 小川勝士 教授 木村郁郎

学位論文内容の要旨

癌患者の免疫能、とくに細胞性免疫能を適確に把握することは、免疫療法を行う上で重要である。癌細胞には正常細胞にない腫瘍特異抗原 (TSA) が存在すると考えられ、担癌宿主との間に免疫反応を惹起している。本研究では胃癌、大腸癌における癌特異抗原を検出する目的で、癌組織の DOC 抽出膜蛋白と対応の癌患者末梢リンパ球とを混合培養し、この細胞浮遊液を自家接種して皮内反応を行った。皮内反応の結果は、胃癌28例中19例 (67.9%) 大腸癌25例中13例 (52.0%) が陽性であり、胃癌でやや高い陽性率を示し、従来の抗原単独の皮内反応に比し陽性率が上昇した。臨床病期別に皮内反応を検討すると、胃癌では有意差は認めなかったが、大腸癌では病期の進行しているものに低い陽性率を認めた。組織別分類でみると、胃癌では tubular adenocarcinoma, signet-ring cell carcinoma, malignant lymphoma で高い陽性率を呈し、大腸癌では moderately differentiated adenocarcinoma でやや高い傾向を示した。非特異的皮内反応である PPD 皮内反応や血清 CEA 値と本皮内反応との相関は認められなかった。

論文審査の結果の要旨

本研究は癌患者の腫瘍特異抗原の検出について研究したものであるが胃癌大腸癌の抽出膜蛋白リンパ球混合培養液による自家接種皮内反応の結果重要な知見を得たものであると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。